

令和4年度丹生こども園評価書

1 施設の概要

施設名	東かがわ市立丹生こども園			園長	箕野 由美子			
住所	〒769-2605 東かがわ市町田182番地1			TEL	(0879)25-4804			
				FAX	(0879)25-4804			
HP				E-mail	mlw4007@city.higashikagawa.lg.jp			
園児数 学級数等 (R4.5.1)	0・1歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	
	3名	10名	12名	18名	12名	20名	75名	
	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	6学級	
職員	園長	1名	保育教諭	16名	保育教諭 補助員	3名	庁務員	1名
	副園長	1名						
園教育・保育 目 標	心身共に健やかで、たくましく生きる丹生っ子の育成を目指す (1) よく考えて行動する子ども (2) やさしく思い合う子ども (3) 健康でたくましい子ども							
経営の重点	1 基本的な生活習慣の定着を図り、食育及び体力作りを推進して楽しい園づくりに努める。 2 地域の教育力を活用して継続的な交流を図り、地域に開かれた園づくりに努める。 3 安全管理を徹底し、安心・安全な園づくりに努める。 4 園内外の研修に参加したり、保育の評価を導入し保育の見直しをしたりして資質向上を図る。							
指導の重点	1 健康・安全な生活を送るために必要な基本的な生活習慣や態度を身に付け、健全な心身をもった子どもを育てる。 2 様々な活動の中で進んで人と関わり、周りの人々に対して愛情や信頼感をもった子どもの育成、地域に各たより等で情報発信をしていく。 3 安全点検の徹底とその対応、また、不審者対策及び災害時の対応策を工夫する。 4 職員研修を通して共通理解や共働性を高め、専門性の向上に取り組む。							
学びに関する 内容 (R5.3 見込)	総保育時間数							
	3歳児	1,155h	5.5h× 42週					
	4歳児	1,183h	5.5h× 43週					
	5歳児	1,155h	5.5h× 42週					

2 園教育評価

	評価項目	自己評価	学校関係者評価
確かな学びの定着	◎基礎的・基本的な学びの定着、伸長のための適切な指導が計画的に行われているか。		
	各年齢の発達に応じた計画を立て教育・保育が行われている。	B	A
	子どもの興味・関心・意欲を大切にし、主体的に関われる環境を考えた教育・保育が行われている。	B	
	子ども一人一人の理解に努め、思いや考えを大切にしたり関わりができている。	B	
	自然・人・物など様々なことに触れ、豊かな体験の場の充実が図られている。	A	
心豊かな温かい人づくり	◎豊かな心を育み、正しい規範意識と生活習慣を身に付けた子どもの育成が図られているか。		
	職員は、子どもが遊びや生活の中で善悪の判断や思いやりの言葉など規範意識を養えるような関わりができている。	B	B
	絵本や物語などに親しみ興味をもって聞いたり、想像したりする等楽しめるように取り組んでいる。	B	
	保育者が子ども一人一人の気持ちや思いを受け止め、寄り添う関わりができている。	B	
	地域交流や園外保育を通して地域の良さに気付いたり、人と関わったりしながら豊かな心を育むことができている。	A	
	異年齢児交流や日常保育の中で相手の気持ちに気付いたり、思いを伝えたりするなど、人と関わる力を育むことができている。	B	
たくましく生きる力の育成	◎様々な体験を通して、心身ともに健康でたくましく生きる力を培うことができているか。		
	食物への興味・関心や、食べる楽しさを感じられる食育の推進が図られている。	B	A
	体を動かす心地よさや、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう取り組んでいる。	B	
	子どもの実態や年間計画に沿って、継続的な保健衛生指導を行っている。	B	
	個々の家庭と連携し、子どもの実態や年間計画に沿って基本的生活習慣の定着を図っている。	B	
	安全な生活や交通安全の意識を高めるための取組を計画的に行っている。	A	
教職員組織と研修	◎教育・保育課題を達成するため教職員組織や指導力を向上させるための研修内容になっているか。		
	自分の保育を振り返り、子どもの人権を尊重する関わりに努められている。	B	A
	一人一人の子どもを全職員で把握し、個々に応じた支援に取り組むことができている。	B	
	園内研修の内容や進め方が子どもの関わりや環境構成の学びとなり、保育実践に生かすことができている。	A	
	外部指導者による研修に取り組み、職員の専門性の向上に繋がっている。	A	
	園行事のねらいや内容を共通理解し、報告、連絡、相談をしながら協力して取り組んでいる。	B	

教職員の働き方改革	◎教職員のワーク・ライフ・バランスを考慮した業務の適正化等が図られているか。		
	バランスのとれた園務分掌組織や職員体制を整備し、職務の負担軽減して業務改善が進められている。	B	B
	園内行事を見直したり、事務処理の時間を確保したりして職務の効率化に繋がっている。	B	
	回覧やホワイトボード等を使って伝達事項の周知を行い、共通理解に努めている。	B	
	園内研修や職員会は、時間を決めたり考えをまとめて参加したりして効率よく行う工夫ができています。	B	
保護者・地域との連携	◎園教育の充実のために保護者や地域との連携協力が図られているか。		
	園便り、園長通信、クラス便り、写真掲示、園新聞等を通して園からの情報公開ができています。	A	A
	職員は保護者の子育ての悩みや相談に応じたり、共に成長を喜び合ったりして適切な対応をしている。	A	
	子どもたちが豊かな体験ができるように、地域や保護者の協力を得ることができています。	A	
	支援センターは子育てに関する相談や支援を行うことができています。	A	
施設・設備	◎園児が安全に楽しい園生活を送れる施設・設備になっているか。		
	園内外の環境の安全点検を実施し見直したり、修理・修繕などを行ったりしている。	A	A
	避難訓練を実施し職員の危機意識向上や、不審者・災害時の適切な環境整備に努めている。	A	
	清掃や緑化に努め、衛生的、機能的な環境の保持に努めることができています。	A	

評価 [A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや改善の必要がある D : 改善の必要がある]

3 成果と課題 [○成果 ●課題]

- 保護者・地域・職員が協力して実施した取組により、皆で子どもの命を守る安全意識が高まった。
- 日常的に危機管理意識をもって、子どもに関われるよう取組を継続する。
- 地域の特色や教育力を生かした取組が計画通り実施でき、交流を深めることができた。また、子ども職員ともに、より食への関心が高まった。
- 地域との繋がりが深まる取組や保護者発信を継続していく。
- 園内外の研修での学びを年齢に応じた環境構成や関わり、個々の支援に生かすことができ、子どもの成長に繋げることができた。
- 職員の負担を軽減した取組方法の見直しが必要である。

4 来年度の経営の重点

- 危機管理意識が高められるような取組の継続に努める。
- 様々な体験活動を通して、豊かな心や感性を育てる。
- 職員の資質向上及び研修方法の見直しを図る。

5 来年度の指導の重点

- 保護者・地域・職員の協力体制により、危機管理意識が高められるような取組を計画し実施する。
- 様々な人との関わりや活動を通して、豊かな心が育めるようにする。
- 職員の研修方法の見直しや効率化を図りながら、職員同士の学び合いに取り組む。